



4年 土屋 誠君

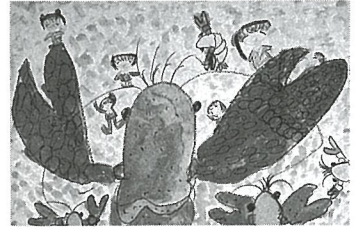


『タイヤをくぐる友達』

※タイヤから、  
いつしよけ  
んめい出る感  
じをだすのに  
くろうしまし  
た。



1年 かせ ちあきさん



『ざりがにとあそんだよ』

※大きなはさみ  
を色々なえの  
具をませてぬ  
るのがたいへ  
んでした。



『自転車を点検する友達』



5年 土井由利さん

※指が難しく少  
し変になつた  
が、自転車は  
よくできました。



『花とほく』



2年 高木やすみつ君

※はっぱの色ぬ  
りをくふうし  
ました。



6年  
上段右から  
行方佳美さん  
椎名恵美さん  
大木忠芳君  
下段右から  
土屋恵里奈さん  
関川 哲君

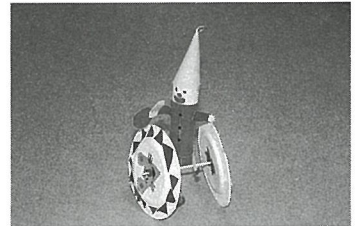


『織田信長と安土桃山時代』

あつまれ みんなの 力作



3年 加瀬あゆみさん



『ゆらゆらごころ』

※ピエロを大き  
く作りました。  
もようもきれ  
いにできました。



川島 重一(尾垂)  
寝ぐせよき児に風鈴の躍りおり

慈愛の眼を注ぐ祖父、下五の措辞  
が更に情感を深める。上五は「寝  
付き」としたい。

山崎 てい(二又)  
入門書見つゝ、駒置く梅雨の昼  
傘寿を経てなを未知なるものへ挑  
戦の意欲、作者の余生の生き方を  
教典としたい。

伊藤 幸枝(尾垂)  
夏めくやキラリと光る耳飾

「光る」を削り初夏の情緒を鮮明  
に。参考「イヤリングきらりと少  
女夏野来る。」

鈴木 都根(橋場)  
カーディガン脱いでまた着て梅雨寒し

越川せつ子(篠本)  
風鈴や俄に雲を孕む空

鈴木とし子(宝米)  
蚊帳つりて夫の寝息深くなり

川島千栄子(宮川)  
風鈴や手習ひの子ら真剣に

短評 椎名しげる

評者吟  
風鈴に死の刻ひたと風絶ゆる